

令和7年度第1回魚沼圏域地域医療構想調整会議（書面開催）

議題（2）説明事項

魚沼圏域内医療機関の状況について

- ・県立松代病院の入院機能を県立十日町病院へ統合（無床診療所化）すること。

機関名	役職名 氏名	意見等
魚沼市立 小出病院	魚沼市医療公社 理事長 布施 克也	資料2-変更理由について 「入院患者は高齢者が多く・・・対応には、総合的・包括的な医療的ケアが必要とされていることから、小規模病院では難しいものとなっている。」 松代病院では総合診療専門医が在籍し「総合的・包括的」に患者を診ている。地域を支えるオールラウンドプレイヤーとして、扱う問題の広さと多様性が特徴であり、医療資源の少ない地域の小規模病院でこそ必要と考えられるのでその辺りを含めて文面の改善を願いたい。また、松代病院は無床化となるが、地域住民に対して「ベッドはなくなるが進化はする」というメッセージやビジョンが必要なのではないか。
南魚沼市立 南魚沼市民病院	病院事業管理者兼院長 外山 千也	現在の新潟県の医療計画が在宅重視であるなら、なおさら松代病院の病床を十日町病院に吸収した場合、退院後の松代・松之山地区の住民（患者）の在宅医療を支える具体的なサービス提供体制について統合以前に打ち立てるべきである。 なお、このような在宅医療体制が整備されていないと十日町病院の地域包括ケア病床の在宅復帰率が診療報酬基準を満たさないこととなり、結果として十日町病院の収支の悪化も招くこととなる。
県立松代病院	院長 吉嶺 文俊	他の地域と比較して、魚沼圏域内における慢性期病床は極端に少ないが、松代病院の病床を他の医療機関に振替えなくてよいのか。 とくに信濃川筋においては介護老人保健施設も皆無であり、急性期を脱した患者の受け入れ先が圏域外（県外）に頼らざるを得ない状況になっており、危機的である。
十日町福祉会	常務理事 松村 実	地元説明会以降、松代、松之山地域の介護施設の協力医療機関について意見交換を行っている中で、介護施設嘱託医として松代病院の役割は重要で、今後は入院対応機関である十日町病院と嘱託医、介護施設の連携が要となる。ICTを活用した連携を含めその在り方を新潟県も共に考えるべきと思う。 診療所化しても現行の診療科は残すとあるが、現在の医師体制が引き継がれるのか地元としては大きな不安がある。既に顔の見える関係ができており、かかりつけ医として機能している。 デジタル技術の活用についての言及もあった。具体的にデモンストレーションを行うと地元の理解が深まると思う。
南魚沼市 (福祉保健部)	介護高齢課長 佐々木 百代	方向性に示されているとおり、多病多様非定型の疾病を十日町病院で受入れることで、圏域内の病院、介護施設への影響がないように対応いただきたい。
十日町市 (市民福祉部)	地域ケア推進課長 小林 良久	住民説明会時での質問等で、次回（9月）回しとしたものについて事前に方針を示すなど、丁寧な説明に徹していただきたい。 また、「参考資料4」では触れられていないが、市外病院利用者への説明や、当日参加できなかった方の意見も広く求めるよう要望があった点についても対応願いたい。